

高次脳機能障害者支援体制 資源調査アンケート結果 (平成24年度;徳島・愛媛・香川)

高知県は既にアンケート調査が行われた(平成23年度)

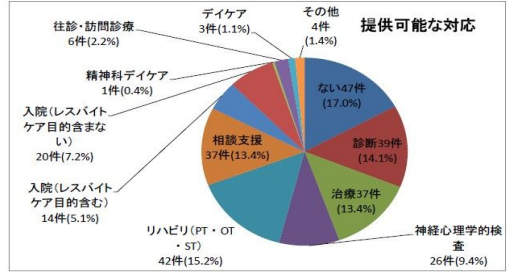
発送機関数:2634、回答施設:516、回収率:19.9% (3県の病院、有床・無床診療所、福祉サービス提供機関)
 ・高次脳機能障害の認知度
 ・施設利用者概数
 ・支援の内容
 ・施設の充実度と連携先
 ・施設と地域における課題

徳島大学脳神経外科 永慶信治

高次脳機能障害の認知度と対応(病院、有床・無床診療所)

「相談・診断・治療・リハビリに対応している対応なしが17%ある」

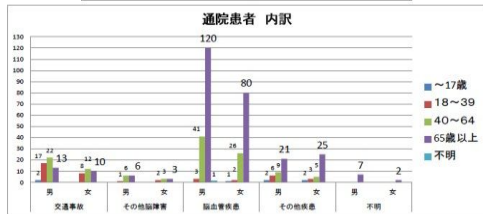
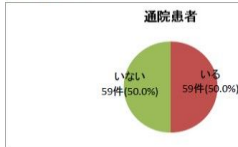
「病院、有床・無床診療所」
 発送数:828機関 回答数:120機関 回収率14.5%



1. 提供可能な対応「その他」
 ・脳外科で受診後、他院へ紹介 *他医へ紹介 * 日常生活支援・ケアの提供

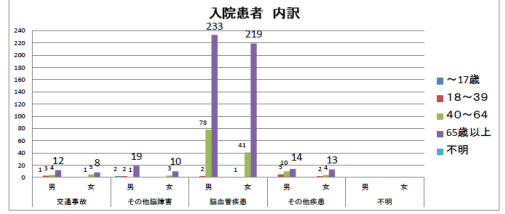
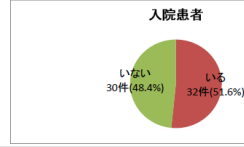
「病院、有床・無床診療所」

半数の施設で通院の高次脳機能障害者に対応している原因疾患は脳卒中、頭部外傷が多い



「病院、有床・無床診療所」

半数の施設で入院の高次脳機能障害者に対応している原因疾患は脳卒中が多い

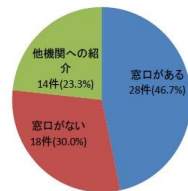


退院後の窓口が存在するのは半数以下である

「病院、有床・無床診療所」

ソーシャルワーカー対応人数 129人

退院後の受診相談窓口について



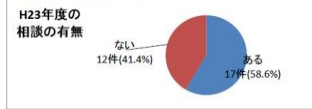
- 退院後の対応窓口がある
 - * 地域連携室
 - * 事務受付
 - * 高次脳機能障害支援室
 - * 医療社会相談部
 - * リハビリテーション科
 - * 外来(脳神経外科、医療相談)
 - * 内科
 - * MSW
 - * ソーシャルワーカー

- 他機関への紹介
 - * 伊予病院
 - * 市立半和島病院
 - * かがわ総合リハビリテーション
 - * サンガリハビリテーション
 - * 松山市民病院
 - * 松山リハビリテーション
 - * 御荘病院
 - * 三豊総合病院
 - * 三好病院

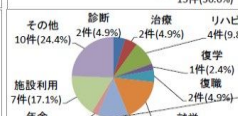
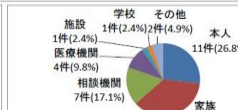
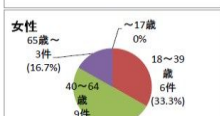
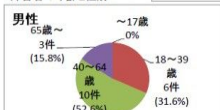
高次脳機能障害の認知度と利用者数(市町村施設)

「H23年度の相談の有無」

発送数:61機関 回答数:29機関 回収率47.5%



相談の内訳 障害者の年齢と性別



《病院、有床・無床診療所、福祉サービス提供機関、市町村》

発送数: 2634機関 回答数: 516機関 回収率19.9%

対応先案についての希望

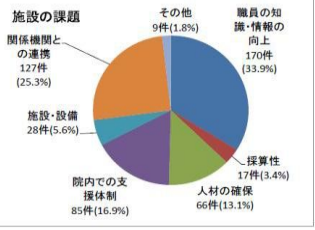
- ※ 啓蒙普及
- ※ 知識・情報収集し、支援体制の整備
- ※ 具体的な相談支援体制の強化
- ※ 各支援機関との情報共有
- ※ 支援拠点間の充実
- ※ 支援拠点との連携を深める
- ※ 紹介先の確保、治療の確立
- ※ 適切なサービスや連携
- ※ 地域支援
- ※ 社会への対応の支援
- ※ 社会復帰への援助・システム化
- ※ 対象となる方の生活全般がより豊かになるようなネットワーク作りの構築
- ※ 相談窓口の設置
- ※ 院内での体制づくり
- ※ 医療費助成
- ※ 人材確保
- ※ 精神科という敷居が高い状態の改善
- ※ 若い方も有効に時間を使うことができる施設
- ※ 少しずつ利用者の受け入れを促す
- ※ 利用者が利用しやすいようにしたい
- ※ 専門職からのアドバイス
- ※ 回復期での家族カンファ
- ※ 個別対応の充実
- ※ 入院を含めた対応の充実
- ※ スキルの充実
- ※ 職員の知識の向上・研修・講習
- ※ 診断・治療・リハビリの充実
- ※ 日常生活や社会生活での適応的な準備を減らすため様々な障害を適切に評価しリハビリを行えるようマニュアル作成と職員教育
- ※ 現在医師が行っている相談支援のノウハウを全てでその職種の知識で行う間の知識が広がる
- ※ 家族との連携
- ※ 本人・家族への情報提供、相談支援
- ※ 日常生活の家事・外出の支援
- ※ 退院時サポート
- ※ 退院後の生活について外来リハでのフォロー
- ※ 余暇支援
- ※ 他利用者との良好な関係の構築
- ※ 混乱時の対応
- ※ 声のかかけ方
- ※ 在宅生活が可能な程度の生活訓練
- ※ 就労・復職や自動車運転等の悩みを持たれている方への対応、支援のサポート
- ※ 自立訓練(機能訓練)サービス利用者を中心とした就労及び生活訓練について専門的アプローチでできるようなスキルの充実に取り組む
- ※ 介護認定のレベルではフォローできない患者がいる
- ※ 感情コントロールが不能になった場合の対応
- ※ 小児の需次室のケースは「経験がない」という点について
- ※ 具体的なことを相談できる場がほしい
- ※ 身の回りの世話をする仕事なので、どのような考え方が、どう対応すればいいのか一番気持ちのいい方法を知りたい

対応先案について



施設の課題: 職員の意識向上、人材確保、支援体制の充実

《病院、有床・無床診療所、福祉サービス提供機関、市町村》



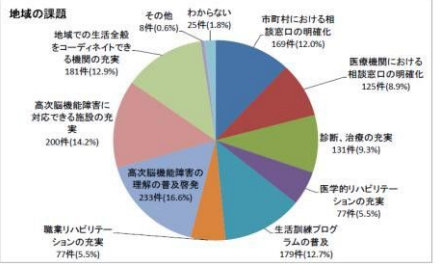
- 人材の確保 「職種」
- ※ 医師
 - ※ ナース
 - ※ 作業療法士
 - ※ 理学療法士
 - ※ 保健師
 - ※ 精神保健福祉士
 - ※ MSW
 - ※ ヘルパー
 - ※ 訪問介護
 - ※ 相談支援専門員
 - ※ 生活支援員

- 課題「その他」
- ※ 時間確保が難しい
 - ※ 現診療報酬制度の中でエビデンスを上げ続けながら長期にわたリケアをしていく体制と時間が難しい
 - ※ 家族との連携
 - ※ 認知症患者を入院させられない。家族がついてもらえるのなら話は別だが、
 - ※ 利用後の出入
 - ※ 就労に関する支援
 - ※ 相談支援事業所の役割が高次脳機能障害者又は病院等において十分に認識されていない。
 - ※ 身体・知的障害者(利用者)の理解

地域には様々な課題がある

相談窓口・連携先の明確化 生活訓練・就労リハビリプログラムの充実 施設・スタッフの充実

《病院、有床・無床診療所、福祉サービス提供機関、市町村》



- 地域の課題 「その他」
- ※ 医療と行政、施設との連携
 - ※ 地域・社会の理解
 - ※ 就労できる社会づくり
 - ※ 悪化期にすぐ対応できる機関の確保(休日・時間外等)
 - ※ 家族への支援

まとめ

- 高次脳機能障害の理解度は高まってはいるが、いまだ十分とはいえない。
- 各施設での取り組み、支援体制、人材確保の改善が望まれる。
- 地域での連携、支援ネットワークの機能が十分とはいえない。
- 就労、就学への取り組みは継続的に改善することが望まれる。